

# 編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-74	中学校	技術・家庭	技術・家庭(家庭分野)	1-3
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	家庭 002-72	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して		

## 1. 編修の基本方針

# 自らの生活を切り拓き、 人、地域、社会、未来を結ぶ

自立と共生を目指して

技術・家庭科(家庭分野)では、**自立と共生**をテーマに、よりよい生活を営む力を育みます。家庭分野の学習に実践的・体験的に取り組み、**生活を工夫し創造する資質・能力**を育成することを目指して、この教科書を編修しました。自分自身の生活を切り拓くために、**学習内容と自分とを結び**、さらに**人や地域、社会との共生へ結んでいく**。それが**生徒の未来を紡ぐ糸**となる。そのような願いを、教科書全体で表現しました。

教科書を手にした生徒が家庭分野の学習を通して、「自分でできた!」「もっとよくしたい!」と**自分自身の成長に気づき**、「あれも、これもできる!」と自分だけでなく、**地域や社会のために学習を生かそうとする**、そんな生徒の姿が見えることを願っています。

### 特色 1

## 主体的に課題を解決していく力が身につく教科書

生活の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程を重視しました。**自分の成長を実感でき、さらに生活をよりよくするための実践に取り組める教科書**です。



### 特色 2

## 家庭分野の「新しい学び」につながる教科書

主体的・対話的で深い学びのために、個に応じて学習を進めたり、協働して学習を深められたりする活動例を掲載し、**それぞれの場面に对应したQRコンテンツを準備**しました。



### 特色 3

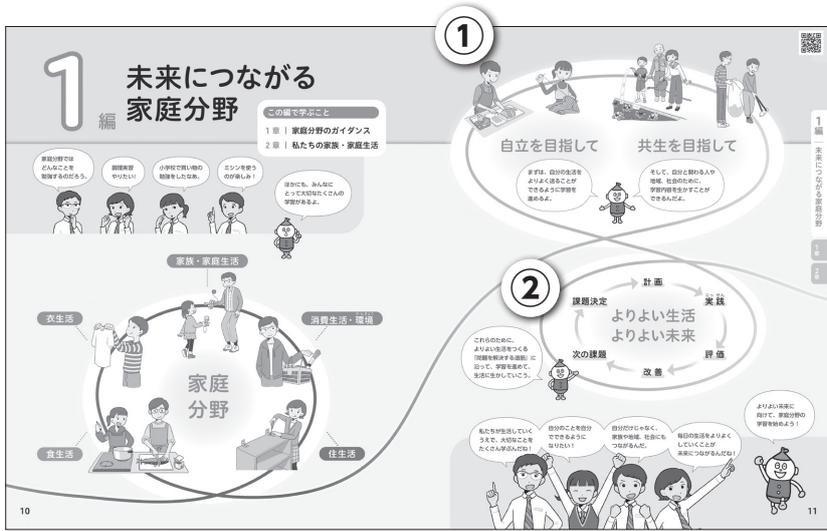
## 家庭分野の学習の意義や大切さが伝わる豊かで楽しい教科書

**持続可能な社会の構築のために**、家庭分野の学習をどのように生かし、どのような意思決定が必要かを、**今日的な課題**に対応した魅力的で豊富な資料とともに示しました。



# 1. 編修の基本方針

## 特色 1 主体的に課題を解決していく力が身につく教科書



「自立と共生」を目指し、課題解決をする道筋を示しました。

- ① 1編の導入で、これから学習する内容と「自立と共生」を目指すこととのつながりを示しました。
- ② 自らの課題を解決していくことで、「よりよい生活」「よりよい未来」につながる事が分かるように表現しました。

◀ p.10-11 / 1編 未来につながる家庭分野



各編の導入は、自分の課題に気づけるように工夫しました。

- ① 各編導入のダイナミックな写真の中で、生徒キャラクターが課題につながるヒントを示しています。
- ② 生徒自身が課題だと思ったことを記入する欄を新設し、主体的に課題解決しようとする意欲を高められるようにしました。
- ③ 「家庭分野の見方・考え方」や「家族・家庭の基本的な機能」とのつながりを明示しました。

▲ p.28-29 / 2編 私たちの食生活



各節に、学習を見通す「学習課題」を新設しました。

- ① 「学習課題」を提示することで、生徒が見通しを持って主体的に学習に取り組むことができるようにしました。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」につながる、さまざまな活動を掲載しました。
- ③ 学習の最後に「まとめの活動」に取り組むことで、育成すべき資質・能力を示した「目標」が達成できるように構成しました。

▲ p.30-31 / 食事の役割

① 食生活や生産地はどこを見ればよいのだろうか。□知りたい

① 学習課題 食事にはどのような役割があるのだろうか。



## 2. 対照表

教育基本法第2条第1号・第5号の趣旨を十分に反映すべく、本書を編修しました。

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p><b>1 編</b> 未来につながる 家庭分野</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>家族や地域の人</b>など、自分が多くの人に支えられていることに気づき、それらの人々と関わりを持って生活することの大切さが実感できるよう工夫しました(第1号、第3号)。</li> <li>● 「家庭分野のガイダンス」では、生活の営みに係る見方・考え方の例、家族・家庭の基本的な機能の例では、人々が<b>性別や世代を超えて協力</b>している場面や、<b>環境に配慮</b>している場面、地域の<b>伝統文化</b>に触れている場面をイラストで提示しました(第3号、第4号、第5号)。</li> <li>● <b>生活の中から課題を見つけて解決する</b>プロセスを繰り返すことで生活をよりよくするという、家庭分野の<b>問題解決的な学習過程</b>を分かりやすく示しました(第1号)。</li> <li>● 家庭や地域での生活を振り返る学習では、生徒キャラクターを用いた例を題材とすることで、各家庭や生徒の<b>プライバシーに配慮</b>しました(第2号)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ p.10-25</li> <li>・ p.18-19、24-25</li> <li>・ p.6-7</li> <li>・ p.10-25</li> </ul>
<p><b>2 編</b> 私たちの食生活</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「<b>プロに聞け!</b>」では、<b>職業観、勤労観の育成</b>を目指して、公認スポーツ栄養士、栄養教諭、栄養士、和食調理人からのメッセージを紹介しました(第1号、第2号、第5号)。</li> <li>● 1日に必要な1~6群の食品の目安量を<b>実物大の写真</b>で提示し、視覚的に食品の大きさや量が実感できるように工夫しました(第1号)。</li> <li>● <b>食品の選択</b>の学習では、<b>社会や環境にも配慮</b>して選択できるように「C消費生活・環境」との関連を図りました(第4号)。</li> <li>● 日本や地域の食文化を知って継承することを重視し、<b>だし汁の取り方や和食、行事食、地域の食文化、郷土料理</b>などを取り上げました(第5号)。</li> <li>● <b>調理実習</b>では、主題材5例(組み合わせる料理の例10例)、参考例21例、実習例5例、<b>サステナブルクッキング</b>3例と、題材例を充実させるとともに、美しく豊富な写真を掲載し、実習の意欲を喚起するように工夫しました。また、主題材の調理の手順は、横の流れで、大きな写真で示すことで、調理過程の食品の変化を科学的に理解できるようにしました(第1号、第2号)。</li> <li>● <b>食物アレルギーや食中毒</b>などに関する内容に「衛生マーク」などを付し、調理を行ううえで、<b>常に配慮</b>することができるように工夫しました(第1号、第4号)。</li> <li>● 食料自給率やフード・マイレージ、食品の廃棄量などの<b>国際的な統計資料</b>を用いて、よりよい食生活について幅広く学習できるように工夫しました(第4号、第5号)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ p.37、51、63、100</li> <li>・ p.44-47</li> <li>・ p.52-53</li> <li>・ p.73、98-103</li> <li>・ p.73、76-79、82-87、90-95、96-97、101、108-109</li> <li>・ p.59、61、74-97</li> <li>・ p.104-107</li> </ul>
<p><b>3 編</b> 私たちの衣生活</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本や地域の衣生活の文化を知って継承することを重視し、<b>和服や地域に伝わる衣の文化</b>の例などを取り上げました。また、「<b>江戸時代と循環型社会</b>」では、日本の伝統的な「<b>物を大切にすること</b>」を紹介しました(第4号、第5号)。</li> <li>● 「<b>プロに聞け!</b>」では、<b>職業観、勤労観の育成</b>を目指して、小倉織の生産者やクリーニング師、繊維製品プランナーの方からのメッセージを紹介しました(第1号、第2号、第5号)。</li> <li>● <b>衣服計画</b>や、<b>既製服の選択と購入</b>の学習では、<b>社会や環境にも配慮</b>して学習できるように「C消費生活・環境」との関連を図りました。また、衣服の生産から廃棄までの流れを、「C消費生活・環境」の<b>循環型社会</b>の流れと統一して示しました(第4号)。</li> <li>● <b>布を用いた製作</b>では、生徒の製作意欲を引き出すような活用場面の写真を豊富に取り入れました。また、<b>難易度の幅</b>を広げて、小物から簡単な衣服まで題材を充実させました。<b>資源や環境に配慮</b>した題材も多数取り上げています(第1号、第2号、第4号)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ p.122-125、162</li> <li>・ p.124、131、163</li> <li>・ p.138-141、163</li> <li>・ p.152-161</li> </ul>
<p><b>4 編</b> 私たちの住生活</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住生活の文化を知って継承することを重視し、<b>日本の住まいや、伝統的な住まい方</b>などを取り上げました(第5号)。</li> <li>● 「<b>プロに聞け!</b>」では、<b>職業観、勤労観の育成</b>を目指して、建築家や危機管理アドバイザーからのメッセージを紹介しました(第1号、第2号、第5号)。</li> <li>● 安全な住まい方の学習では、家族や地域との関わりを盛り込みながら、<b>家庭内事故の防ぎ方や災害への対策</b>について学べるようにしました。また、災害への対策では、家庭・地域の実態や時間数に応じて扱えるよう資料を充実させました(第4号)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ p.172-175</li> <li>・ p.172、185</li> <li>・ p.178-185</li> </ul>
<p><b>5 編</b> 私たちの消費生活と環境</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>契約や消費者トラブル、消費者の権利と責任</b>の学習では、現在あるいは将来直面するかもしれない場面を、具体的な実習例や活動例として取り上げることで、実感を持って学習できるように工夫しました(第1号、第2号、第3号)。</li> <li>● <b>金銭の管理</b>の学習では、家族の生活に関わる金銭の計画的な管理について扱い、小学校家庭科と高等学校家庭科をつなぐ学習となるように工夫しました(第1号、第2号、第3号)。</li> <li>● 「<b>プロに聞け!</b>」では、<b>職業観、勤労観の育成</b>を目指して、消費生活アドバイザーやエシカル消費の専門家からのメッセージを紹介しました(第1号、第2号、第4号)。</li> <li>● <b>持続可能な社会の構築</b>を目指して、責任を持って消費生活を送ろうとする意識が持てるような学習活動を取り上げました(第1号、第3号、第4号、第5号)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ p.195、200-209</li> <li>・ p.198-199</li> <li>・ p.212、215</li> <li>・ p.210-215</li> </ul>
<p><b>6 編</b> 私たちの成長と家族・地域</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>家族・家庭</b>についての学習は、<b>ガイダンスと関連</b>を持たせ、相互に学習が深められるように工夫しました。さらに、幼児の学習後に、これからの家族関係をよりよくする学習を位置付けることで、「A家族・家庭生活」の学習を<b>系統的に進められる</b>ようにしました(第1号、第2号、第3号)。</li> <li>● 地域に伝わる文化を知って継承することを重視し、<b>地域の行事や取り組み例</b>を写真で取り上げました(第2号、第5号)。</li> <li>● 「<b>プロに聞け!</b>」では、保育士や介護福祉士からのメッセージを紹介し、<b>職業観、勤労観の育成</b>とともに、実習のスムーズな導入となるよう工夫しました(第1号、第2号、第3号)。</li> <li>● 幼児の靴や箸、手袋などを<b>実物大の写真</b>で提示し、自分と比べるなどして幼児の体の大きさを視覚的に捉え、成長について実感できるように工夫しました(第1号、第4号)。</li> <li>● <b>幼児との触れ合い体験</b>は、地域や学校の実態に応じて選択できるように、「施設への訪問」、「さまざまな触れ合い体験」、「写真での観察」の3例を取り上げました。また、幼児の様子を、見て学ぶことができるように、写真を豊富に掲載しました(第1号、第2号、第3号)。</li> <li>● 幼児や高齢者をはじめ、多様な人々との関わりを重視し、写真やイラストでさまざまな立場の人を取り上げ、共生の大切さを感じられるように工夫しました(第1号、第2号、第3号)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ p.222-267</li> <li>・ p.264-265</li> <li>・ p.243、255、263</li> <li>・ p.230</li> <li>・ p.246-251</li> <li>・ p.218-270</li> </ul>

# 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

## 1 全ての生徒が使いやすい紙面への配慮

### ① インクルーシブ教育を目指して

- ・特別支援教育の観点から内容及びデザインについて検討するとともに、専門家による校閲を受けました。全ての生徒にとって認識がしやすいように、文字の書体(UD書体)、図版やイラストのレイアウトなどを工夫しました。
- ・ふり仮名は、特別支援教育で推奨されている丸ゴシック体を用いました。また、多様な生徒の学びを保障するため、教育漢字以外の漢字には全てふり仮名を付しました。

### ② ユニバーサルデザインへの取り組み

- ・基本ページでは、「目標」「始めの活動」「学習課題」「まとめの活動」などを全見開きの同じ位置に配置しています。本文の位置を左揃えにすることで、生徒の目線が上から下へと自然に流れるようにしました。
- ・カラーバリアフリーの観点から、配色とデザインについて検討し、色覚に関する専門家の校閲を受けました。色覚特性に配慮し、色情報以外の模様や記号でも識別ができるようにしました。
- ・検索性を高めるために教科書にツメを設けました。



### ③ 人権上の配慮

- ・写真やイラストに登場する男女の比率や役割に偏りがないように配慮しました。スラックス姿の女子生徒や外国籍の生徒など、多様な生徒の姿を表現しています。
- ・さまざまな家族や、地域に住むさまざまな人々を取り上げました。また、人と関わる際に配慮したい内容を「マナー」マークで示しました。



### ④ 造本上の工夫

- ・環境に配慮した再生紙・植物油インキを用いました。長期の使用に耐えるよう、製本は堅牢です。
- ・本文用紙は、食品の写真などが鮮やかに、人物の写真などがあたたかみを帯びるような色味で表現でき、かつ裏うつりにくく軽い紙を使用しました。
- ・印刷業界団体が定めた環境配慮基準を満たす「グリーンプリンティング認定工場」で印刷しています。

### ⑤ 発展的な学習

- ・必要に応じて幅広く学習できる発展的な内容には、「発展」マークを付けて示しました。



## 2 今日的な課題への取り組み

### ① 現代的な諸課題への取り組み

- ・実習などを安全に行ううえで大切な内容には、「安全」「衛生」などのマークを付けて、注意を喚起しました。また、実習上のコツなどには「ポイント」マークを付けました。
- ・「環境」「消費者」「伝統文化」「防災」「情報モラル」といった現代的な諸課題を意識しながら学習が進められるように、右記のマークを設けました。



### ② 道徳教育との関連

- ・伝統と文化の尊重、家庭生活の充実、個性や立場の尊重など、随所で道徳教育との関連を図りました。

### ③ 小学校、高等学校との学習の系統性

- ・小学校の学習内容と関連する箇所には、「小学校」マークを付けました。
- ・小学校家庭科、高等学校家庭科との系統性や発達段階を踏まえて、衣食住の生活などの身近な内容を前半に、消費生活と環境の内容や、家族・幼児や高齢者などに関する内容を後半に位置付けました。
- ・「家庭分野のガイダンス」では小学校家庭科の学習内容やこれまでの自分の生活を振り返り、「家庭分野の学習を終えて」では、生涯にわたって学習内容を生かすために、これからの自分について見つめる活動を取り入れています。

## 3 学校教育を取り巻く諸課題への取り組み

### ① 先生がたの働き方改革への貢献

- ・各内容において育成したい資質・能力を明確にするため、節ごとの「目標」と「学習課題」を示しました。
- ・「実習例」は、短時間で取り組めるものから本格的に取り組めるものまで幅広く取り揃えました。授業の状況に合わせて選択したり、生活の中で実践したりできます。また、生徒が自ら問題を発見するためのヒントにもつながります。

### ② カリキュラム・マネジメント

- ・「リンク」「他教科」「小学校」マークを用いて、分野間や教科間、校種間の連携を高めます。また、教科関連を示すDマークは、小学校家庭科や他教科の関連する内容の教科書紙面を見ることができ、学習の理解を深めることができます。

### ③ 1人1台端末時代の教科書

- ・個別最適な学び、協働的な学びにつながる豊富なQRコンテンツを用意しました。動画やシミュレーションによって、興味・関心のある内容を調べたり、ワークシートで自分の考えをまとめることで他者との意見交流・共有のきっかけとなったりします(※QRコンテンツを使用する際の通信費は自己負担となります)。
- ・制度化された学習者用デジタル教科書を発行する予定です。

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-74	中学校	技術・家庭	技術・家庭(家庭分野)	1-3
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	家庭 002-72	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### 特色 1 主体的に課題を解決していく力が身につく教科書

#### ① 問題を解決する道筋が見える教科書の構成

●家庭分野の**問題解決的な学習**を重視し、家庭分野の学習の流れを、見開きで分かりやすく示しました。**生活に始まり、生活に返す**学習の流れを明確に示しました(p.6-7)。



▶ p.6-7 / 家庭分野の学習の進め方



▲ p.276 / 生活の課題と実践



▲ p.28-29 / 編の導入



▲ p.62-63 / 基本ページ



▲ p.84-85 / 実習例

#### ② 学習課題が見える基本ページ

●各節に「**学習課題**」を示すことで、見開きで何を学習するかを明確にしました。学習課題に導く「**始めの活動**」、学習の振り返りとなる「**まとめの活動**」を設け、生徒が主体的に学習に取り組めるようにしました(p.30-31など)。



◀ p.30

学習課題 食事にはどのような役割があるのだろうか。

#### ③ 「生活の営みに係る見方・考え方」を分かりやすく例示

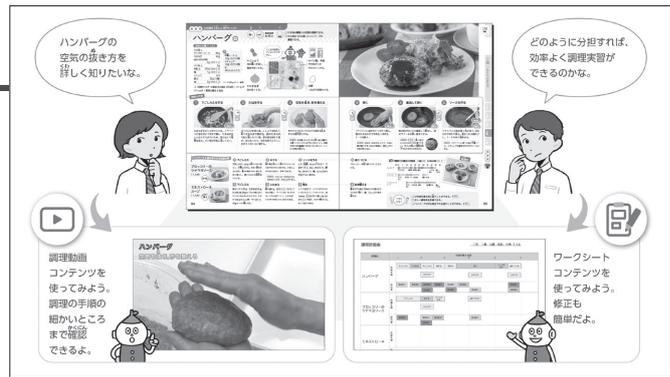
●「**生活の営みに係る見方・考え方**」について、ふだんの生活の中で動かせる場面を例示し、生徒が**自らの問題発見**につなげる工夫をしました(p.18-19)。



▲ p.19 / 家庭分野の見方・考え方

① 基礎的・基本的な知識・技能の習得につながる工夫

- 実習や生活での実践に必要な**基本的な技能**については、「いつも確かめよう」としてまとめました(p.64-73、127-129など)。動画コンテンツなどを準備して、**いつでも自分のペースに合わせて確認ができる**ようにしました。
- 実習において、手順などを確認するためのワークシートや、**レシピや製作の手順などを掲載した資料のQRコンテンツ**を準備し、学校だけでなく、**家庭でも実践ができる**ようにしました(p.84-85など)。

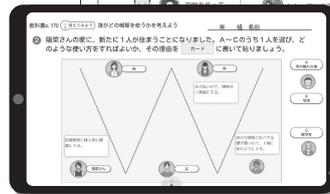


▲ p.5

② 「主体的・対話的で深い学び」につながる工夫

- 教科書内には、「主体的・対話的で深い学び」につながる活動を掲載しています(「やってみよう」「考えてみよう」など)。それらの活動を、**QRコンテンツを用いて、自分の考えをまとめる**ことができます(p.30、187、207など)。
- **思考ツールを活用したQRコンテンツ**によって、自分の考えを整理し、班やグループなどで意見交換をすることで、さらに新しいアイデアや考えへの気づきにつながります(p.74、138、170など)。

p.170/考えてみよう▶



◀思考ツール(Wチャート)などを活用したコンテンツ

③ 小学校との系統性、他教科との教科横断的な学習につながる工夫

- 小学校家庭科で学習した内容をガイダンスや編の導入で示すとともに、それぞれの関連箇所には「**小学校マーク**」を付けました(p.14-15、29、142など)。**小学校家庭科の教科書紙面**を確認できるQRコンテンツも準備しました(p.73、118、194など)。
- 他教科と関連する内容を「**他教科マーク**」で示し、教科横断的な学力の定着を図ります。とくに関連が深い場面では、**他教科の教科書紙面**をQRコンテンツで確認することができます(p.35、177など)。



▲ p.73/資料

◀小学校家庭科の紙面

④ キャリア教育につながる工夫

- 将来を見据えた**職業観、勤労観を育成**するため、「**プロに聞く!**」を設けました。栄養士、建築家、保育士、企業で働く方などからの、生徒へのメッセージを紹介しています。**動画のQRコンテンツも準備**し、学習を深めることができます(p.51、172、243、270など)。
- 「プロに聞く!」の総集編として、巻末に「**学んだことを社会に生かす**」を設けました(p.284-285)。

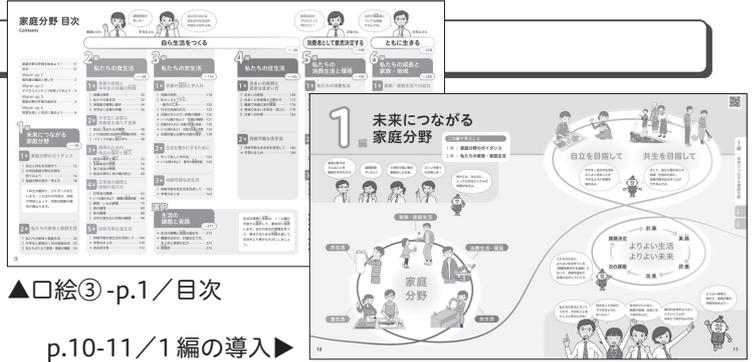


▲ p.270/プロに聞く



① 家庭分野の学習の意義を伝える構成

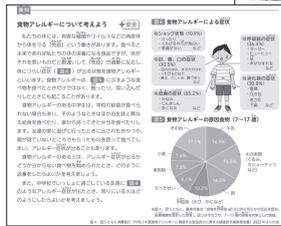
- 教科書の構成は、「[A(1)ア ガイダンス] [B食生活] [B衣生活] [B住生活] [C消費生活・環境] [A家族・家庭生活] [選択 生活の課題と実践]」の順に構成し、**自立と共生を目指す**とともに、**小学校と高等学校家庭科との系統性**を踏まえた構成にしました。
- 家庭分野の学習は、**自立と共生を目指して、生活をよりよくする力を身につけていく**学習であることを、「家庭分野のガイダンス」で示しました(p.10-13)。



▲口絵③ -p.1/目次  
p.10-11/1編の導入▶

② 安全・衛生への配慮から、生命を守る大切さへ

- 調理実習では、**食物アレルギーや食中毒**などに関わる内容に「衛生マーク」などを付し、調理を行ううえで、**常に配慮することができる**ように工夫しました。
- 食物アレルギー**については、**資料を新設し、自分の生命や体を守る大切さ**について考えられるようにしました(p.59)。
- 巻頭に「**実習を楽しく安全に進めよう**」を設け、実習の注意事項をまとめて示しました(p.8-9)。また、学習の中で配慮すべき安全や衛生のポイントには「**安全マーク**」や「**衛生マーク**」を付しました。



▲p.84-85/実習例

▲p.59/食物アレルギーについて考えよう

③ 今日的な課題への対応

- 持続可能な社会の構築に向けて**
  - ・各編の編末は、**持続可能な社会の構築に向けた章を新設し**、統一しました(p.104-109、162-163、186-187、210-215、260-267)。
  - ・SDGsの視点から、これからの学習や実践を深められるように巻末に「**家庭分野とSDGs**」を設けました(口絵④)。
- 家庭分野に関わる今日的な課題**
  - ・防災・減災など災害への備えに関する学習には「**防災マーク**」を付けました(p.182、286など)。
  - ・環境の視点と生活場面とを結び付けて考えられるように「**環境マーク**」を付けました(p.108、162など)。
  - ・「**和食**」や「**日本の衣服の文化**」など、日本の伝統文化の良さや大切さが実感できる内容に「**伝統文化マーク**」を付けました(p.98、172など)。
  - ・消費者教育を重視し、日常生活と結び付けて考えられる場面に「**消費者マーク**」を付けて強調しました(p.104、194など)。



▲p.214-215/  
持続可能な消費生活を  
目指して

② 豊富な資料、実物大写真へ

- 1日に必要な食品の概量を、「**手ばかり**」「**目ばかり**」の手法で確認できる**実物大写真**を示しました(p.44-47)。
- 幼児の体の大きさを視覚的に捉え、幼児との関わり方の工夫につなげるために、**幼児の使う物を実物大写真**で示しました(p.230)。



▲p.45/実物大の食品



▲p.230/幼児の世界を  
感じてみよう

## 観点別特色の一覧

組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>●それぞれの編の各章、各節の内容は、学習指導要領の内容を踏まえて、学習が系統的に進められるよう、基礎・基本から応用・発展へと段階を踏んで丁寧に記述しています。</li> <li>●各内容の分量は、時数、学期、学年配分などに配慮し、偏りなく扱えるようにしています。</li> </ul>
学習方法・授業展開への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>●巻頭に目次を配置し、これからの学習内容が見渡せるようにしています(口絵③-p.1)。</li> <li>●各編の導入は見開きで構成し、生徒の興味・関心を高める写真やイラストなどをを用いるとともに、それらが生徒の<b>主体的な学習</b>を促し、<b>問題解決型学習へと結び付く</b>ように配慮しています。</li> <li>●幅広い難易度の実習題材を豊富に掲載し、学校の実態や生徒の技能に応じて選ぶことができます。</li> <li>●当該の学習内容と関連するページに「リンクマーク」を示しています。家庭分野と技術分野を総合的に学習できるように、技術分野に関連する学習内容もリンクマークで示しています(p.54、200など)。</li> <li>●生徒が学習する際に参考にできるように、レポート例などを充実させています(p.38、121、184、253など)。</li> </ul>
資質・能力の育成	<p><b>〔知識及び技能〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●本文中の重要語句はゴシック体で強調し、基礎的・基本的な知識を確実に習得できるようにしています。</li> <li>●本文の内容を裏付ける実験などの資料を取り上げ、<b>科学的な理論に基づく知識</b>が習得できるようにしています(p.64、75、130-131、134、177、226など)。</li> <li>●図表やレポート例、ロールプレイングなどを充実させました。</li> </ul> <p><b>〔思考力、判断力、表現力等〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●基本ページの「まとめの活動」や各編末の「学習のまとめ」には、「<b>生活に生かそう</b>」を設け、生徒が学習したことを自分自身の生活に生かせるように工夫しています(p.33、131、175、179、205、253など)。</li> <li>●随所に「活動例」を設けるとともに、<b>思考ツールを用いて学習できる</b>ように例示しています(p.72、170、198など)。</li> </ul> <p><b>〔学びに向かう力、人間性等〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●豊富な写真やイラスト、漫画などを用いて、生徒が興味・関心を持って学習を深められるようにしています(口絵①-②、p.10-11、14-15、208、260、口絵⑤-⑥)。</li> <li>●「発展的な学習内容」や「せいかつメモ」などを設け、興味・関心に応じて知識の幅を広げることができます。</li> </ul>
学習評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各節の冒頭に観点別評価につながる「目標」を示しています。</li> <li>●各編末には「学習のまとめ」を見開きで設け、身についた資質・能力を確認することができます。「<b>1 学習したことを確かめよう</b>」で「<b>知識・技能</b>」、「<b>2 考えを深めよう</b>」で「<b>思考・判断・表現</b>」、「<b>3 生活に生かそう</b>」で「<b>主体的に学習に取り組む態度</b>」と、それぞれの項目で生徒が学習を振り返ることで、三観点に沿った評価につながるようにしました(p.110-111、164-165、188-189、216-217、268-269)。</li> </ul>
教育のICT化への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Dマークを示した教材では、学習に関連するQRコンテンツ(動画、シミュレーションなどの資料)を用意しています。教科関連を示すDマークは、<b>小学校や他教科に関連する内容の教科書紙面</b>を見ることができます。</li> <li>●制度化された学習者用デジタル教科書の発行を予定しています。</li> </ul>
人権、福祉への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的なルールやマナーなどに関する内容には「<b>マナーマーク</b>」を付して注意を喚起し、他者を思いやり、<b>人権を尊重する態度</b>を身につけるようにしています(p.245)。</li> <li>●幼児から高齢者まで世代の異なる人、障がいのある人やない人、さまざまな国籍の人、異なる文化や言語を持つ人などが登場し、周囲の人との<b>共生の大切さ</b>を自覚できるようにしています(p.12-13、264-265、283など)。</li> <li>●<b>男女がともに子育てに関わっている姿</b>を写真やイラストで示したり、<b>男女共同参画社会基本法</b>を取り上げたりしています(p.24-25、250-251、284-285など)。イラストや写真の男女の服装や発言内容が、性別による役割固定につながらないように配慮しています。</li> <li>●教科書全編を通して、各家庭や生徒のプライバシーに配慮しています。特に家族の内容では、<b>さまざまな家族形態</b>があることを示し、どの家族もかけがえのない家族であることが指導しやすいように配慮し、生徒の自己肯定感を高めるようにしています(p.20-21など)。</li> </ul>
特別支援教育への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ふり仮名は、特別支援教育で推奨されている丸ゴシック体を用いています。</li> <li>●基本ページでは、「<b>目標</b>」「<b>始めの活動</b>」「<b>学習課題</b>」「<b>まとめの活動</b>」などを全見開きの同じ位置に配置しています。生徒の目線の動きを、全ての内容で統一するようにしました。</li> <li>●実習の手順などを横の流れで統一し、見やすく理解しやすいようにしています。</li> <li>●生徒の巧緻性に配慮し、作業する手や姿勢の写真などを豊富に掲載するとともに、包丁や手縫いの内容では、<b>左利きの例</b>も取り上げています(p.68、129)。</li> <li>●特別支援教育の観点から、内容及びデザインについて検討し、専門家による校閲を受けています。</li> <li>●学習者用デジタル教科書では、教科書紙面を拡大したり、文字を白黒反転して表示したりすることができます。また、総ルビ・分かち書きで表示する機能も備え、全ての生徒の学びを助けます。</li> </ul>
安全教育への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●巻頭に「実習を楽しく安全に進めよう！」を設け、<b>実習前、実習中、実習後における注意事項</b>を記述し、安全への意識を高めてから各実習に取り組むことができるように配慮しました。<b>手の洗い方</b>については動画のQRコンテンツを準備しています(p.8-9)。</li> <li>●実習や技能、触れ合い体験などにおける安全や衛生のポイントには「<b>安全</b>」マーク、「<b>衛生</b>」マークを付して、生徒の意識を高めるように工夫しました。</li> <li>●調理実習の「<b>いつも確かめよう</b>」では、調理の安全・衛生に関する内容がまとめられ、実験写真やイラストなどを設け、<b>科学的根拠に基づいて理解</b>できるように工夫しました(p.64-65)。</li> </ul>
食育の充実に資する配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭分野が担う<b>食育の役割の重要性</b>に鑑み、食生活の内容が系統的に学習できるように配慮しました(p.28-115)。</li> <li>●食生活の内容では、冒頭で食事の役割を押さえ、<b>自らの食生活を見直す</b>ことで課題を持って後の学習に臨めるように工夫しました(p.30-33)。</li> <li>●調理実習の主題材5例は、完成例の写真と「<b>目標</b>」を示し、<b>課題を持って実習に取り組める</b>ように工夫しました(p.76、82、84、90、92)。</li> <li>●実物大の写真を充実させたり、折り込みページを活用して食品や料理、献立の写真を充実させたりして、生徒の興味・関心を引き出し、学習を深めることができるように工夫しました(p.44-47、76-79、82-87、90-97など)。</li> <li>●<b>学校給食</b>と関連付けて指導できるように配慮しました(p.32、51、98)。</li> </ul>

キャリア教育の充実への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「プロに聞く!」では、栄養士、建築士、保育士など、家庭分野の学習を生かしたり、関係の深い仕事に就いている人たちのメッセージを紹介し、生徒の<b>勤労観・職業観を育む</b>ことができるように工夫しました(p.51、172、243、270など)。</li> <li>● 巻末には「プロに聞く!」を総集した「学んだことを社会に生かす」を設け、家庭分野の各内容を深めて働いている人々を学習内容別に取り上げ、<b>家庭分野の学習と社会とのつながり</b>を感じられるように工夫しました(p.284-285)。</li> </ul>
SDGs への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 巻末に「<b>家庭分野とSDGs</b>」を設けるとともに(口絵④)、2~6編の最終章は持続可能な生活を目指した内容で構成し、全ての学習でSDGsの視点から<b>持続可能な社会の構築に寄与する態度</b>を養い、学習やこれからの生活を工夫できるようにしました(p.104-109、162-163、186-187、210-215、260-267)。</li> <li>● <b>サステナブルクッキング、省エネルギー、エシカル消費、消費者市民社会、アップサイクル、フェアトレード</b>などを取り上げ、持続可能な社会や環境について考えられるように配慮しました(p.108-109、211、214-215、217など)。</li> <li>● 環境、資源・エネルギーについて、<b>循環型社会の推進</b>を大きなテーマとして扱い、循環型社会のために自分たちにできることを具体的に挙げました(p.163、213など)。</li> </ul>
家庭分野の臨時免許などの先生がたへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書の基本構成は、授業が組み立てやすい「<b>見開き構成</b>」で、育成すべき資質・能力を各節の冒頭に「<b>目標</b>」として明確に示し、「<b>学習課題</b>」を設けることで、指導と評価の一体化が図ることができるように工夫しました。</li> <li>● 豊富な実習例が紹介されているため、生徒や学校、地域の実態に応じて選択することができるように配慮しました。</li> <li>● 質の高い<b>動画</b>や<b>シミュレーション</b>、<b>思考ツール</b>や<b>ワークシート</b>などといった教科書と連動して利用できるQRコンテンツによって、専門ではない内容でも安心して指導できるようにしました。</li> </ul>
ユニバーサルデザインへの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 書体は<b>UDフォント(ユニバーサルデザイン書体)</b>を使用し、可読性を高めています。</li> <li>● カラーバリアフリーの観点から、配色とデザインについて検討し、色覚に関する専門家の校閲を受けています。</li> </ul>
文字・印刷・製本	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境に配慮した再生紙・植物油インキを用いています。</li> <li>● 本文用紙の軽量化に努め、長期の使用に耐えるよう、製本は堅牢です。</li> <li>● 印刷業界団体が定めた環境配慮基準を満たす「グリーンプリンティング認定工場」で印刷しています。</li> </ul>

## 2. 対照表

図書構成・内容		学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
1編	未来につながる家庭分野 1章 家庭分野のガイダンス 2章 私たちの家族と家庭生活	A(1)ア	p.10-25	1-3
自ら生活をつくる	2編 私たちの食生活 1章 食事の役割と中学生の栄養の特徴 2章 中学生に必要な栄養を満たす食事 3章 調理のための食品の選択と購入 4章 日常食の調理と地域の食文化 5章 持続可能な食生活	B(1)ア(ア)(イ)イ B(2)ア(ア)(イ)イ B(3)ア(ア)イ/C(1)ア(イ) B(3)ア(イ)(ウ)(I) B(1)(2)(3)/C(2)アイ	p.28-115 p.30-37 p.38-51 p.52-61 p.62-103 p.104-109	3-5 5-8 3-5 10-13 1-2
	3編 私たちの衣生活 1章 衣服の選択と手入れ 2章 生活を豊かにするために 3章 持続可能な衣生活	B(4)ア(ア)(イ)イ/C(1)ア(イ) B(5)アイ B(4)(5)/C(2)アイ	p.116-165 p.118-141 p.142-161 p.162-163	7-9 6-11 1
	4編 私たちの住生活 1章 住まいの役割と安全な住まい方 2章 持続可能な住生活	B(6)ア(ア)(イ)イ B(6)/C(2)アイ	p.166-189 p.168-185 p.186-187	7-8 1
	5編 私たちの消費生活と環境 1章 私たちの消費生活 2章 責任ある消費者になるために 3章 持続可能な消費生活	C(1)ア(ア)(イ)イ/C(2)アイ C(2)アイ C(1)(2)	p.192-217 p.194-203 p.204-209 p.210-215	3-5 2-3 2-3
生と暮らしている	6編 私たちの成長と家族・地域 1章 家族・家庭生活での自立 2章 幼児の生活と家族 3章 持続可能な家庭・地域生活	A(1)ア A(2)ア(ア)(イ)イ/C(1)ア(イ) A(3)ア(ア)(イ)イ	p.220-270 p.222-223 p.224-259 p.260-265	1 8-13 2-4
	選択 生活の課題と実践	A(4)ア/B(7)ア/C(3)ア	p.271-281	3-7

※配当授業時数は、各内容を扱う際の最小時数を下限、最大時数を上限として示しています。

※教科書の授業時数87.5時間(175時間を技術分野、家庭分野と均等に割り振ることを想定)と、配当授業時数の合計の差は、編の導入や学習のまとめ、資料などの読み物ページなどの時間にあててを想定しています。

# 編修趣意書

## (発展的な学習内容の記述)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-74	中学校	技術・家庭	技術・家庭(家庭分野)	1-3
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	家庭 002-72	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項	ページ数
125	世界の民族衣装	2	内容 B(4) ア(ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。	0.25
175	世界のさまざまな住まい	2	内容 B(6) ア(ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。	0.25
217	フェアトレード	2	内容 C(1) ア(ア) 購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。 内容 C(2) ア 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。	0.5
249	赤ちゃんが学校に	2	内容 A(2) ア(イ) 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること。 内容 A(2) イ 幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。	0.25
256-257	幼児の成長を支える地域の役割 子どもを守る条約や法律 ユニセフの活動	2	内容 A(1) ア 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付くこと。 内容 A(2) ア(ア) 幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解すること。	2
258-259	赤ちゃん一人間の育ちの始まりー	2	内容 A(1) ア 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付くこと。 内容 A(2) ア(ア) 幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解すること。	2
288-289	ユニバーサルデザイン	2	内容 A(3) イ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること。 内容 B(6) ア(イ) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。	2

合計 7.25 ページ

(「類型」欄の分類について)

- …学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容(隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む)とされている内容
- …学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容